

昭和三十三年二月二十日  
第二回臨時會々議錄





昭和三十三年十一月二日館山市議会議臨時會合議録

一 昭和三十三年二月二十日午後二時館山市議會議會十一月二日臨時會合を館山市役所分館會議室にお集する。

一 出席議員數三十三名との氏名左の如し。

一 番	名井 澤	二 番	高橋文治
四 番	田中忠蔵	五 番	荻生田七郎
六 番	秋山万次	七 番	山口房治
八 番	田村喜兵衛	九 番	田中祿郎
一〇番	佐久由馬次郎	一一番	伊勢仙之助
一二番	吉田勇治郎	一三番	小沢恵太郎
一四番	磯辺岡雄	一五番	大野清五郎
一六番	鈴木 孝	一七番	安西政治
一八番	小沢太助	一九番	小谷無達
二〇番	鈴木市蔵	二一番	望月暉作



二番 松本藤太郎 二三番 近山ヨネ子

二四番 脇田順一 二六番 金木久一

二八番 嶋村壯作 二九番 小沢老義

三〇番 山口 康 三一番 飯田義男

三二番 可世木芳藏 三三番 後藤中五

三四番 黒川佐太郎 三五番 福岡保徳

三六番 嶋田 繁不

一、欠席議員数三名とその氏名左の如し。

三番 山本 昇 二五番 石井平次

二七番 中村吉五

一、本日の議事日程左の如し。

日程第一報告第二号 昭和三十一年度二月臨時出納検査報告

、第二認定第三号 昭和三十一年度館山市下入才出決算

、第三号 特別会計国民健康保険下入才出決算。



日程才ニ認定才三才 特別会計国民健康保険費及診療所才入

才出決算

才 才四才 特別会計公益費屋才入才出決算

才 才三議案才五才 起債議決の変更につりて

才 才四議案才四才 館山市立館山高等学及校授業料入才

才 才五議案才五才 考査料入才料徴収才創の一部を改正するにつりて

才 才五議案才五才 館山市国民健康保険費及診療所

設置才創制足につりて

才 才六議案才五才 館山市公民館才創の一部を改正するにつりて

才 才七議案才七才 昭和三十一年度館山市特別会計公益費屋才

入才出追加更正予算

才 才八議案才八才 昭和三十一年度館山市入才出追加更正予算

「法才二〇三十一才」より議事から説明のたの出席を認めをきり

市 長 田村利岡



助役

小出武男

総務課長

定戸 貴

収入役代理

奥田 壽吉

税務第一課長

黒野 芳雄

税務第二課長

山口 藤実

秘書課長

山合 菊一

商工小産課長

吉田 耕一

建設課長

新井 重助

財産税計課長

高木 哲三

厚生課長

羽山 房雄

戸籍課長

伊藤 幸太郎

保健課長

唐沢 貞太郎

福祉事務所長

長谷川 広治

選挙事務課長

岡崎 慶太郎



診療所事務長

池田 亮山

教育委員

工藤 和平

教育委員会庶務課長

鶴沢 寛

監査委員

奥 武夫

「本議会の事務長および書記は次の通り。」

事務局長

高梨 清一

書記

太田 博雄

同

奥田 孝男

「本日の会議の事件」

議事の進行同じ。

開会 午後二時三十分

議長（石井 厚吉）本日の出席議員数三十三名より本

二回中議会の臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案説明のため田村市長、小出 助夜、奥 孝



後援課長、奥田收入係代理、唐沢伴廣課長、吉田商工水  
産課長、新井建治課長、高木農産統計課長、山本秘書  
課長、長谷川福祉事務所長、羽山重三課長、伊藤久雄  
課長、黒野健祐第一課長、山口我邦第二課長、岡崎運掌  
管理委員会書記長、奥田診療所事務長、工藤教育長  
倉沢成務課長、岡田益重委員、以上の出席を認めまし  
て、御報告いたします。

議長（石井清吉） 会議録署名委員の決定を承知します。  
お諮りいたします。従来の例により議長の指名により決ま  
りますには御異議ありませんか。

異議 議なしの声

議長（石井清吉） 御異議なしと認めます。よって二十六番  
議員松本藤太郎君、三十六番議員奥田繁吉君以上の  
御りは定めてありますには御異議ありませんか。



異議なしの聲

議長（○井 厚君）御異議がないと認めます。よって決定をま  
して、次に会期の決定を行います。

本臨時会の会期につきましては議会議長の協議会の意見は  
本日（日）ということになります。お諮りいたします。会期は  
本日（日）と決定いたします。御異議ありませんか。

異議なしの聲

議長（○井 厚君）御異議がないと認めます。よって会期は（日）  
と決定いたしました。

議長（○井 厚君）議事本を配布いたします。

書記 議事本 配布

議長（○井 厚君）議事本の配布をうへはありますか。かゝと  
認めます。議事本の手配と配布の同封書にふりつけを添付して  
まわす。可成り（数）を上げようと思っております。



監査委員（岡武夫君）二月十三日の府物三十二年第二回月  
の臨時出納検査をいたしました。議決をこの日の立会に  
所得たが市でござります。その内容について説明いたします。  
附傳證ひよう書類計数には誤りはないとござります。と。

一 一般会計の予算にありて市税五百十六万五千入つてありま  
す。市民税六十万。固定資産税 百九十万。煙草消費税  
百二十万。電気がス税七十七万五千入つてござりました。  
市税におきまゝて収入未済額は六千四百万五千入つて  
あります。が、納期の来ないものを差引きますと、正味の  
滞納が四千二百八十九万二千入つてござります。

欠損額二百十九万二千四百となつてありますが、百四十八万  
余りがしまゝでございましたので一月に欠損額が七十九万五千  
あったこととなります。これは二十五年年度のものにござります。  
また下出口におきまゝ一十四万五千入つてござりますが、この



はまなるものは市税所三百万、教育費三百八十万、社会および  
別の施設費に二百三十万、産業経費百五十万、内等が  
大きな数にござります。出入差引き六百万の年々の  
残でございましてこの数字が現金に保管されてあります。  
次に各特別会計につきまゝはこの表により強う解ゆがします。  
議長の御覧、報告にいらして御覧なれませんか。御覧は  
なにと認めます。つづいて日程を二認定をもち、なさいと四十一お  
上げいたします。

### 書記朗讀

認定をもち、四十一 昭和三十年度館山市入出決算。

市長(田村利男君) 自治法改正により決算認定はこの年度の報  
告を市長から出さなければならぬということになりまして別冊  
の通りお手許に配布してあります。一々朗讀を省略いたし  
ます。以上認定のほどをお知らせします。



監査委員(岡武夫君)三十二年は一般会計ならびに特別会計  
について市長の方から監査委員の審査の結果を自治法の定  
めるところによりまして報告してまいります。が、勘定書の簿  
を慎重に審査いたしました。がここに意見書を提出いたしま  
した。ように各決算とも決算書は関係簿冊證ひよく符  
合してありまして正確であることを認めます。

議長(石井 博君)認定一号ないし四号について質問ありませんか。  
二二番(松本藤太郎君)議題になっております認定一号  
ないし四号であります。が、この決算に対しましてなお慎  
重に審査を行なうべきではないと思っておりますので決算審  
査特別委員会を設置、なお決算の重要性から相当  
日時を要すると思っておりますので閉会中の審査とともに  
動議を提出いたします。よろしく。

議長(石井 博君)お諮りいたします。ただいまの二十二番



議員の動議に御異議ありませんか。

異議なしの声

議長(石井君) 御異議なりと認めます。よって認定や  
りないし十四号は決算審査特別委員会を設置、内会  
中審査を併うことに決定いたしました。なお決算審査  
特別委員会委員の人数および選任の方法はどういた  
しますようか。

三四番(黒川佐太郎君) 議長に一任したいと思ひます。

二三番(鈴木市蔵君) 監査委員にお伺ひしますが意  
見書のなかに国保の未徴収があるて聞きますが、これは何  
年度のころのものですか。

監査委員(岡武夫君) お答へします。昭和二十六年年度、二十七  
年度、二十八年度にございますが、組合から市の方に引扱がな  
い、それが残っております。



議長(石井博君)三十四番議より議長一任の二戸がありまーと  
が御異議ありませんか。

### 異議なしの声

議長(石井博君)御異議ないとおめます。よって委員は十  
名と決定いたします。委員の選任は議会運営委員会  
と協議いたします。

議長(石井博君)暫時休憩いたします。

午後二時五十四分 休憩

午後三時

再開

議長(石井博君)再開いたします。

決算審査特別委員のひきぞ中上げます。

三番山本昇君、六番松山万次君、八番田村喜兵衛  
君、十三番小沢忠太郎君、二十番鈴木市蔵君、二十五番  
石井平次君、二十六番金木久一君、二十八番十沢太郎君。



二十人番小次義君、三十三番後藤ゆき君、以上十名を委員と決定するに御同意計ありませんか。

### 同意議なしの声

議長(石井孝君)御同意議なりと認めます。よって決定をまた、東市でお諮りいたします。たゞし、設置(いたしました)決定の認定は、オ(と)方(か)に、お田(で)を、内会(うち)の特別討議をするに御同意議ありませんか。

### 同意議なしの声

議長(石井孝君)御同意議なりと認めます。よって決定をまた、二(ふ)番(ふ)増(ぞう)大(だい)作(さく)君(きみ)この決定を委員の報告は、本議会はなると思(おも)いますか。本議会となること、この本議会は、予定(よそ)としていないのでありますか。まづ、いと思(おも)いますか。この点(この)は、いかにですか。

議長(石井孝君)自治法の定めるところにより、三月十



に提案をなすことになつております。この会期中に議定の  
の報告を一ついたさうと思つております。

お諮りします。本臨時会の会期は一日と決定されてあります  
から休会中審議を一ついたさうと三月定期例会におい  
て審議しようと思つたので、審議の期は三月定期例会に  
いたしますが御意見を伺ひたいか。

### 臨時議会の事

議長(古井 隆吉) 御意見を伺ひたいと思つております。どうもよろしく決  
ておきます。

つづいて日程が三議案をミヤコに上程いたします。

### 書 記 朗 読

議案第一号 赤穂議決の件を朗読して。

赤穂議決の件(原 隆吉) 議案第一号をミヤコに上程いたします。  
二号の赤穂議決の件は、赤穂の赤穂議決は、



百万円でありまして、その後五百万円以内許可するつもりで  
なりまして、この議決を基として五百万円以内にとり、  
思ふのであります。

二八番(島崎壮作君) 元は三中に当てるものと思いますが、  
総務課長(見戸孝吉君) 起債の申請はオニ中分校とな  
つておりますが、もし三中ができれば、三中に当てる方が  
よいと思います。

二八番(島崎壮作君) この際三中部敷地をお知らせしたいと思  
います。(田村利男君) 三中部敷地につきましては、数回にわた  
り話し合っておりますが、昨夜も館山小学校にあり、地  
主、大伴方である。区の部落長以下役員三名に服部会長  
立会して、市、町、市長、助役、総務課長、教育委員、  
教育長、警視課長が出席いたしました。先般の趣旨に基  
きまして折衝したわけでございますが、地主側から、地元の



食育の方々の言葉を、総合いたしますと、二十四万とは決いて  
おこなう、むしろ三十万人にまで伸びるに「まあ、ひかへて  
ありまして、市として議会の決定を基の御意見とかなり違  
いますので、また市長自身の考えとありまして、その通り  
ますので、最終は定にいたらず、所定十一時半ごろ、趣意して  
御用事にとります」といふこととてひとまず、別々を述べたてあります。  
（二）鳩山製作（市長がうい）議長に一任する形であります。  
かゝるこの見通しについて所信を承けたりと思ひます。

市長（田村利雄君）このことは誠にいろいろとつづいて、その  
すので、やはり地主の方々の感情も相当とていふように、議会の  
なかに傍聴人各位に會議をへんことが非常に強く御意見を  
ますので、あるいは秘密会とか、議會散会後にしていただく  
らと思ひますか……

議員（中井孝君）休憩いたします。



午後三時十五分 休憩

午後三時二十分 再開

議長(石井)開会(再開)いたします。

二(番)小近義義(三)議案について、七十九分、たことは二中の規模が大きなものになったのか、あるいは送前通りでも七十九分多くもなるのか、その点。

議長(見)貴(三)中を仮定のもとに八教室建てる。この起債でございまして、八教室でなければ五百万七十九分の許可するところでございます。

議長(石井)本議案に対して御異議ありませんか。

異議ないの、と。

議長(石井)開会(三)議案をいとおめします。ふつと本議案は、本議案より決定をします。

つづいて同様の議案を四つと上げたいです。



書 記 朗 読

議事次第より 館山市立館山高等商業学校校務委員の考  
査委員の報告 資料収容室の部を改訂するに就いて  
教育委員(工藤和平君)提案の理由を御説明いたします。館山  
高等商業学校は考査材料を提出するに際しては、自校の資料と  
考査委員の報告とを、なお定時利は徒然に通りかかると  
二(三)の資料(君)議事には異議ありませんが、何となくと  
そ館山の校長に送付いたしますか。  
教育委員(工藤和平君)送付するに決まっております。  
議事(君井澤君)送付異議ありませんか。

田舎 議事(君)の 声

議事(君井澤君)送付異議がないと認めます。どうも材料は、  
材料の決定は、決定いたしました。  
つづいては、材料の議事次第を、お上りいたします。



書記朗読

議案オミチ 館山市国民健康保険支所の設置と診療所  
の設置を創制に付して

佐藤理事(席上夏太郎君) 御説明いたします。今創はするに  
昭和二十九年年度に設置するべきでありましたが、その当時  
事務の煩瑣により創の設置がおくれたのであります。が  
果の監査により創をつくるべきだといつことで本日提案  
いたしました。よろしくおながいいたします。

理事賛成の声

議長(田井博孝君) 御意見をなりと認めます。この案は賛成の  
案であり決定いたします。

つぎに日程オ大議案オミチを上程いたします。

書記朗読

議案オミチ 館山市公民館創の一部を改訂するに付して



教育長(工藤和平君) 管内の青年学級は豊後以外四カ所  
あります。いすも成績をあげてあります。とくに豊後学  
校にいまうける専任の主事、講師が必要でありますので  
これに材料をよねする。関係で募集を改正してりと考  
へております。

二、番(馬場江作君) 青年学級は主事が現在何人いますか。  
庶務課長(鶴沢寛君) 青年学級の主事は七名、講師は  
常任講師は豊後に三名あります。

三、番(馬場江作君) 若干名とあるが増やすことを決定しますか。  
庶務課長(鶴沢寛君) 現在は予定はありません。  
議長(石井博君) 他に御質問ござりませんか。

### 議長の声

議長(石井博君) 御異議なしと認めます。よって本議案  
は原案通り決定してまいります。



つぎに日程を協議せしめしめし上程いたします。

### 書 記 朗 読

議事録をよみ 昭和三十一年度倉山市特別会計公益財団  
不入不出追加更正予算

さき課長(羽山房雄君)が「出から追加説明します。取崩の  
おき手金が十二月から一名ふえ、それに伴ひまして勤務  
地手金等の諸手当に二万七千計上をまゝと、なお準備費に三千  
九百五十円を追加額八千九百三十円を計上したわけでござ  
います。つぎに入に移りますが、この前の議会で承認を  
いたしまして、負債の変更議決により二万二千五百円の貸  
借を申請いたしまして二万五千円の許可がありまして  
ので今回追加いたしまして、送りまして事業費にあらはれて  
繰入金で一般会計のなかで更正いたしまして。

議長(井原君)が「本予算について御質疑ありませんか。」



異議なしの声

議長(石井 隆君) 御異議なしと認めます。 ようく申分はなす

一案を通り決定いたしました。

議長(石井 隆君) しばらく休憩いたします。

午後三時三十分 休会

午後四時十分 開議

議長(石井 隆君) 再開いたします。

議長(石井 隆君) 決算審査特別委員会の委員の互選に

辻花義君、副委員の互選に小沢寛太郎君が決定した

まゝの御報告いたします。

つづいては八議案のうち二つを上げたいと思います。

書記朗読

議案第八号 昭和三十一年度飯山市下入才出追加更正予算

秘書課長(山崎 和君) 議案第八号追加更正予算の案出のなか



ら説明いたします。千出のうち人件費、教育委員会人件費  
に於て御説明申し上げます。オニ款の市役所費の取回費  
にあきまゝ三十四万円を減額いたしますが、これは十一項の諸  
費のなかの恩給および退職料等に追加して退取手当として  
のびいたします。その他の減額は取員の移動によるためで  
ございます。ここに十萬の農業委員の会費でございますが、土地  
改良事務がふまゝであるには、協同助成する建費で追加  
してもございます。

総務課長(定戸貴君)市役所費の千十萬の當務費は二十万円の  
追加でございますが、これは分館を二ヶ所より四で購入することに  
なり使用しておりますが、雨天等は非常に雨もりがよく、ま  
るで今回屋根の破損等を除去、補修等修繕したりと考へる  
ものでございます。この四回の費用は安否二万の考へる  
分は現在八十數名ありますが、市役の主任が六十六人あり



まゝと生切ニテウロ計上してあります。が、なにかすう内をたねば  
運賃のふくむところからいへば、~~運賃~~運賃はあつて、さうして、一回たりり  
を追加してゆかなくてはなりません。これは合資以前は神戸、東京  
の二社にやっていたものでないかとおもふ。

つぎに請求書でございますが、需用費のなかの二十九節に二万四千円余りが訂正してあります。去る一月一日に靖国で安齋神社でこの援給りの高田勝美君を慰霊させ、  
であります。この接骨手当、慰謝料等合計二万四千六百円とやりこいと考えるのでございます。自動車事故の保険がかかっていますので、こゝに訂正してものでござります。

二項の消防団費は二十万五千二百円計上してありますが施設費のうち八万円は雑費が二十万円の車庫を新設することになりましてその二かの一かその他は鉄筋貯水池の建設費の増加分を計上してものとさせていただきます。



建設課長(新井重助君)四款の土木費、七款の調査費にお  
きまゝ四万九千円、これは河川工事のための調査費でございます。  
九項の災害土木費は百五万一千円は見出し筋の護岸所  
ならぬに宮城地区内の復旧工事でございますが、これは去る  
十月二日の豪雨のために災害を受けましたものでござります。  
教育庶務課長(鶴江寛寛君)オセ款教育費について説明いたします。  
教育費におきまゝは、四千六万七千三百六十四円の追加ござら  
ます。一項の教育委員会の費、備品費、自動車三輪車購  
入費と一、二十万円訂上りなさいませんが、これは現在のものが  
一月一ぱりを車体の検査期間がひかれますので、その後検査  
を受けるとは修理費が十万円もかかりますので、もう十万円  
追加して中おちてはありますが、もっと程度のよいものを買つ  
方がよいと考えまゝ、新しく二十万円づつ購入しなさいと考  
へております。







の向上に秘めたりと考へるものと云ふことです。一、四、五の三は校

費は矢張の十分は校費と同じく校医費も同様の費に計入せらるゝと云ふ

ります。需用費の支数に費の十五万円は電燈の使用料など

かゝつて矢張の倍に計入せらるゝものと云ふことです。

十六節はオムツなどの電話など云ふですが、電話のありま

す部屋と講堂と大部の電氣入つてあります。此に非ず

に不便を感じてありますので講堂には電氣をいれたいと思つて

装束として考へるものと云ふことです。

二十五節の十二万円は、各室中、校の校医料などを

いりますが、各室中、校の校医料など、校医料など、校医料

など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料

など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料

など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料

など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料など、校医料



の家事室の上事務費に二十五万円の不足があります。これは  
房中中学校に支給します。や二万校の分校の授業数  
及び補助金に二万五千元補助金を増やすのが、これにより  
家事室を改築するものであります。それから費する  
が校の非効率口ですが、これは今年より時から要致され  
てあります。まず、まずこの校舎は非効率に昇降口の数が  
ザグーであります。事があつた場合生徒を避難させる場  
合困ります。校舎の外に二つと考へるものであります。  
それからや田中校には井戸が一つしかありません。田中  
校には井戸一つと掃除もきなかつた状態です。あります。  
二万七千円で更に一個所つくりたいと考へるものであります。  
更に五校の事務費の増減も支給します。四月の授業は  
普通級費に支給します。それから一校の事務費に  
支給しますが、矢張りそれより上であつたらうと一校を受験







— してあります。このは、パーに着守人の勤務をまきの下本  
かてんかいます。

新社会主義青年会（利用正男君）の会の会費および事務費  
費がかかりますが、之項の二回は、事務費に充てられま  
— して、そのより申請の数がふえ、また、その不足分を  
ごうまします。なお、この財源として、その不足分を  
所費の旅費から回し、まゐります。

新社会主義青年会（利用正男君）の会の会費の不足分を、  
病室費の減耗を、費に九千六百円計としてあります。が、  
— への自動車のタイヤ、タイヤ、タイヤ、二個分を、ごうま  
なお、事務料は、昨年、その費が、意外に発生、まゐり、十  
— 千五百円、かまゐり、この、~~事務~~ 事務費に、対する、支払  
— 二、千五百円、かまゐります。

この修繕料は、三月になります。と、自動車の修理費が











洲崎奥港の修築本にあらざるものか。洲崎奥港に  
きまゝは現在きつめて敷きどくをしますのが出張と  
りて考まゝ。ふたつ月計上しました。この財庫のめ  
とくこの工事費の二割の十六万円は奥港の補助  
にまゐります。残りの九十万円はきまゝ。これは  
財庫により十二万円は他の九十万円はきまゝ。  
はるの益者、その奥港の設計はきまゝ。準備  
工事費を免除。とて考まゝ。計上。とて、い  
あかひ。とて。

豊産銀行(株)本(株)十二割の設計費をきま  
します。二万円は他の九十万円はきまゝ。準備  
工事費を免除。とて考まゝ。計上。とて、い  
あかひ。とて。

洲崎奥港の修築本にあらざるものか。洲崎奥港に  
きまゝは現在きつめて敷きどくをしますのが出張と  
りて考まゝ。ふたつ月計上しました。この財庫のめ  
とくこの工事費の二割の十六万円は奥港の補助  
にまゐります。残りの九十万円はきまゝ。これは  
財庫により十二万円は他の九十万円はきまゝ。  
はるの益者、その奥港の設計はきまゝ。準備  
工事費を免除。とて考まゝ。計上。とて、い  
あかひ。とて。



たいます。このたびは館山市が公明堂事業運動の中心に  
地区に指導をなすものでござります。その結果、公明堂の  
ために灯井が必要になります。このたびは、お話を定こ  
ころ、四ヶ月計上してゆくつもりです。

総務課長(見) 戸数(一)十五軒ござります。三百六十  
の六ヶ月の計上ですが、二層に十五万一千円計上して  
ござります。年度途中にある、日灯の計上  
計画が出まして、この徴収による増加が八万余  
り。それから年度途中に組合の増加がござります。  
その奨励費が六万五千元、この合計十五万一千円ござ  
ります。それから、この組合の増収がござります。が、  
公明堂屋の合計に、増収が二万五千元計上になり  
ましたので、一、組合計か、このものが不要になります。  
の、これを更に減一するつもりです。



つきに大塚沼年度は出金でございますが、借料および地  
料に三十一の三千円計上してあります。が、ヤナギ沼の敷地として  
二十三年以来、中村庫一部式から校庭之千六の九十八坪  
借りてあります。が、計算に基きまして二十三年から二十九年  
まで三十四の三千円、三十九年度七千円、この借料を又払い  
たりと考えるものとでございます。

つぎの八年度にあきまゝ、この大塚沼の借料金の返済金とございま  
すが、当初にあきまゝと、館山の校の施設費の借料金は返済する  
と決定してございますが、途中であると返済したりと考  
え、この借料を三十二年度の六月に延ばし一千円  
全額償還するものとござります。

つきには、ある補てん金とある十五の三千円でございますが、これは赤  
い借料のための、その上の補てん金とござります。たは赤い  
返済のための、という考えがわかるので、すが、ある解



消のためは 解消額を予算に計上してこの 捨不があ  
りますので 六万七千二百四十円を 昭和の形式で計上して  
おつておられます。

ここに才入に ついて 解消説明申しておきます。

才一割の才は 五万二千八百四十九円と計上しますが  
同定価を算出の 年度は 六万三千七百七十九円と計上するが  
これは 今回三公才の 分を 三万六千七百七十九円と計上する  
と なることが なるものと 計上しています。

二割の 地方交付税 七百八十九万五千円と計上しますが  
三十二年 年度 定価額は 四万四千三百九十九円と計上  
するのと 建築の 予算計上 額との 差額を 計上し  
ておられます。 なお 特別交付税に つきましても は 千七百七  
十九円と計上していますか 見込めて 千七百七十九円と計上  
して 三十二年 年度の 算出 額を 算出 金 一万七千七百七十九







業め金三萬九千七百二十九兩の年々分の利子。  
割合でござります。

よから十三目の水産の補助として三萬一千四百計上  
してあります。これは船の水産加工協同組合の計  
置としまして、おる等の補助金とござります。

つぎに七額の昇付金に六千五百千円を以て  
すが、此の昇付金として船形や学校と、南中や校  
にならありますので計上してまいりました。

水産量の昇付金については、漁業協会の協賛金と  
して、地元から昇付金に充てようとしてござります。

つぎに十額の昇付金に、船の夜明燈に必要  
車、燃料、修繕費、夜明燈に必要の材料を以て計上  
する。これは不肖で説明をまいして、船りや夜明燈に事  
なる中、金とらいます。











高上水産課長「吉田君（君）は命めつなひなすか」といふと  
とになります。中理にもう行かなかつていふといふといふ  
は私たちの努力が足りなかつたかも知れませんが、現任が  
はすべて水産復興費の補助が出すことになつております。  
一八番（小沢大助君）地元で五丁一丁二丁の地代はすといふ  
ことは承諾してしうですか。

高上水産課長「吉田君（君）大任地元の復興費用は君とも  
はさういふ大任了解してあります。

一八番（田村幸兵衛君）ま管理費にのほすかゝりますか。  
中理のなるいふことですが、補助金は中理に思  
います。十二丁の地代といふのは中理に思ふと中理が  
現でなりといふことは腑に落ちないと思ひますが、その大  
おはさうなにかいふます。

高上水産課長「吉田君（君）いろいろ考へておひますが



従来の方法は、實際に直接町と單位漢港との話  
 りにより、單相で実施するてありまして、この管理  
 が市に移る官をまゝつて、補助金制度の交付の方法  
 が市町村と經由して、單相に交付する。というよ  
 うな、又、等から考へて、まゝ、單相は補助金をせし  
 ますが、一種漢港に、こゝまゝでは、管理費である、市  
 町村が、主幹となり、單相の、又、何にある補助に、其、た、  
 実施する。という考へ方から、訂正して、おしやうです。  
 一八番（小沢太助君）洲崎漢港に、つては、水産振興費を取  
 つたものであり、いづれ、土不費、漢港修築費であり、と  
 いうことは、ありまいか。この、い、市長の、管理下の漢港の  
 修築、改修は、し、ば、あると、思ひますが、こゝに、つて、ま  
 は、市長が、單相事業に、許さ、得、する。可、能、性、の、ある、か。  
 また、こゝに、ま、ど、單相と、い、つ、つ、つ、つ、と、す、熱、意、が、あ



ふかどうふ、その奥方伺ります。

高工水産課長（吉田耕一君）最初の本土地事案としてやつてゆくかどうかという点につきましては、私たちは規則の詩す範圍にづきるとするならばその線はあやかりてこんどやつてゆきていて考えてあります。またづきるものなうどうしように努力したりと思います。

五番（荻生田や郎君）才人の才一説ですが、済州縣越金の六十二万八千七ゑ四十九円ですか、果してこれだけのものか、取れるかどうか、過大評価になうないかどうか。

それから不出面で市役所費の多寡を授の盛岡の員廻金は本所費的にこれは何に使ふかどうか。

それから土地改良費の各費をどうするか、前年度の増減をどうするか、新井村の自転車をどうにかする、つてというわけがあるか、思つてかどうか、伺ります。



税務課長(山口実君)より、市の市民税の滞納繰越  
金の六十二万八千七百四十九円は徴収可能かどうか  
という調査を依頼しておりますが、一応たゞし、財政に  
かますと市長税の繰越金の徴収額は一千五百五十六  
万六千七百三十二円でございますが、わかれわかれの徴収  
目標は今の四五パーセントと目標に定めます。一  
徴収に努力してある現状でございますが、六十二万  
余円は可能と思います。

税務課長(山口実君)より、市南入の税の滞納繰越  
を申しますと、本長から先金が出向きまして、滞納繰  
越金という関係から、旅費にかかるとは、地域の滞  
納で三十一年度当初予算と繰越金とを繰越する。三十一  
五万円の要項がありまして、現在二十五万あります  
のが追加したいと思ふのでございます。もし二十五万と



なり場合はおぼえて閉鎖という状態にありますのでこれを追加して思うものがあります。

農産統計課長（佐田勇治郎君）佐田君は自動車はまた購入していません。それから諸君までになりますのが、その割合ができておられますので支給をさせません。用件でこのようにわけています。

又（佐田勇治郎君）その割合がなりかゝります。支給できなかったというところ、予算に組んだか、またこれは更なる支給が支給されなくなっていると思います。

農産統計課長（佐田勇治郎君）また予算と組むところ、その割合ができておられますが、その後自給法の改正によります。おぼえてなくなつたのであります。

一（佐田勇治郎君）自動三輪車の件ですが、三輪車の購入はつまりこれはおぼえてなく、またその所有者の







きくうそのは力のなり復巻　こゝ解せうともいふと思ひます。  
こゝで市巻に描き合ふやうにケースに入つてふたりの上  
事ができて、説明は了つてしまふが、すかさんとか「復巻  
巻」なつて地元から出ます。金その利益者と同等におす。  
あるは本質的に可変物だといふ。今こゝを飲みあつて  
より上への暖みかほつてと思ひます。今何は利の復巻  
すべきふたりのはこゝの解せうのもとに「解せう」計上か  
疑わするのふあります。こゝはなつてはなつていふかと信  
ずるのふあります。復巻二事の成り果るの成り果る  
どうしてあつてはるか。こゝのふ針、くの果ていつては  
やこゝと思ひます。

おき(可なり)復巻(可なり)「復巻」にたつてはなつてはなつて  
ケースで従事するは、復巻業をたつてはなつてはなつて  
上事をたつてはなつてはなつてはなつてはなつてはなつて



ちやていございますが、あるいはさういふ食病運動の弊に  
 備には面倒をかうやうなけりなうなうと思ひます  
 か、どうしても今回はこの程度にしようと思ひます  
 まゝ余餘があまりうらやまに考へて、うらやまに考へて思ひ  
 ます。



















送附牌票(宛戸貴君)ただいま三十二番儀の御説明  
が済みしに通り判や失致のは向達いとぞりまゝと。尚  
正りたしといと思ひます。三十二年庄より南分長につま  
まりては中下のより金五万七千六百円市に収入に  
なつてありまゝ。















この一冊は、これをもって本館の会と申会と一冊とす。

とき、午後五時と十四分

本館の会と録し、この四冊とす。

昭和二十二年二月二十日

館山市議会議長

石井

潔

会議録署名議員

嶋田

繁

同

松本 繁



